

## 第3学年 国語科学習指導案

日 時：令和4年11月8日5校時

学 級：八幡平市立安代中学校3年

指導者：立花 律子

### 1 単元名 6 いにしへの心を受け継ぐ

作品の背景を想像して読み、古典の心を今に生かす  
「君待つと一万葉・古今・新古今」

### 2 単元の目標

(1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。

[知識及び技能] (3) ア

(2) 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。

[知識及び技能] (3) イ

(3) 「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて、評価することができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] C (1) ウ

(4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力, 人間性等」

### 3 単元について

#### (1) 生徒について

生徒は昨年の秋から、語句の意味調べや話し合い、発表など ICT 機器を使って学習を進めており、効率よく使用することに慣れている。2年生の近現代の短歌の教材で三十一音の短歌の定型や表現技法を、3年生の俳句の教材では、五・七・五の定型で創作し、季語を示し、どのような風景や思いを詠んだのか説明する学習をしている。

古典学習に関するアンケート（回答者数 21 名）を実施したところ「古典の学習は好きか」という問いに対し「好き 1 名、嫌い 8 名、好きだが読めない 6 名、苦手 6 名」という結果だった。「好き」以外の理由としては「昔の言葉がわからない」、「意味がわかると楽しいが、意味がわかるまで時間がかかり途中で嫌になる」、「わざわざ昔の言葉を読む必要を感じない」ということを挙げている。「これまで学習した古典教材の中で印象に残っているもの」（複数回答）は、2年の「扇的」16名、1年の「蓬萊の玉の枝」12名、2年の「平家物語冒頭」12名、2年の「源氏と平家」10名、など物語教材が多かった。これらのことから、歴史的価値があり現代語訳によってあらすじや意味をつかむことができれば、意欲をもって古典の学習に取り組むことができる生徒だと考えられる。

## (2) 教材について

本教材は、「万葉集」「古今集」「新古今和歌集」の三大和歌集を扱っている。和歌の中でも短歌の形式は、三十一音の限られた音数の表現である。和歌の五音、七音の韻律は、応援歌や校歌、標語やキャッチコピーにも見られ、今の生徒にとっても身近である。それぞれの和歌集の時代背景や文化を理解したうえで、和歌の意味を考えることで、時代を超えて作者の心情に思いを致すことができる。特に「万葉集」は日本最古の和歌集であるという歴史的価値があり、長歌や反歌、短歌など様々な形式の和歌が収められている。内容の分類では「相聞歌」も多い。万葉仮名で表記された和歌に込められた、一つひとつの言葉の意味を、現代語訳で補いながら深く考えさせ、効果的な表現技法が使われていることに気付かせることによって、その和歌を交し合った作者同士のときめきや熱情に共感させることに適した教材である。

## (3) 指導について

多感な時期にある生徒にとって学ぶ必然性や意欲を高めるために、基本的な知識として三大和歌集の特徴をおさえるほか、それぞれの和歌集が編まれた時代背景や文化に触れ、和歌が万葉の時代から長らく人びとにとって気持ちを伝え合うための「ツール」であったこと、和歌の内容の分類には「相聞歌」があることに着目させ、「恋の歌」を拾い出し「ラブレター」のやりとりととらえることができることを伝え、使われている言葉の意味を深く考えさせたい。

本時の学習では、生徒を女子1人と男子2人の3人一組、7グループに分け「高貴な姫に仕える者たち」と設定し、姫に届いた文（和歌）に対し、いくつかの和歌の中から、返歌となる和歌を選ばせ、なぜ返歌としてその和歌を選んだのかという根拠を、表現技法の効果や和歌の意味を挙げながら説明させる。この学習を通して、自分の気持ちを伝えるために和歌が盛んに詠まれた時代の雰囲気に浸らせ、和歌を交し合う姿は自分たちが文字だけで交流している姿と重なること、時代が違っても人間の感情は変わりなく、受け取った文字に込められた気持ちを読み解き、心ときめく思いをしながら返事を認めていた人々が確かにそこにいたということに気づかせたい。

## (4) 本校研究との関わり

ア 単元の「主体的に考え、学びを深め合う生徒」の具体の姿

- ・ふさわしい返歌を選ぶため、資料を活用し、積極的に歌の意味を読み解く姿。
- ・歌の意味や語句や表現などの条件を根拠に挙げて選んだ理由を説明する姿。

イ ICTを活用した指導の工夫について

- ・限定した人数で、同じ目的に向け、協働で探求させる。/ロイロノート共有ノート
- ・選んだ理由について根拠を挙げて説明させる。/ロイロノート共有ノート・電子黒板

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 ((3) ア) ②長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 ((3) イ)	「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて、評価している。 (C (1) ウ)	進んで、和歌の表現のしかたについて評価し、根拠を具体的に挙げて、思いや考えを發表しようとしている。

#### 5 指導と評価の計画 (5時間)

時	学習活動/ICTの位置づけ★	評価規準・評価方法等
1 2	○「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の特色について理解する。三大和歌集の特徴を表にまとめる。 ○三大和歌集の時代背景と文化について理解する。 ★電子黒板	[知識・技能①] ワークシート ・それぞれの和歌集の特徴や表現技法の違いをまとめ、時代背景や文化について理解しているか確認する。
3	○送られた「文(和歌)」に対し、ふさわしい返歌を選び、その和歌の意味や表現の効果などについてまとめる。(グループ) ★ロイロノート	[思考・判断・表現] ワークシート ・送られた和歌の意味を踏まえ、選択肢からふさわしい返歌を選び、意味や表現の効果についてまとめているか確認する。
4 本時	○送られた「文(和歌)」に対し、返歌を選び、その和歌の意味や表現の効果などについて発表する。(グループ) ○返歌の規則性を理解し、送られた「文」に対する返歌を選び、その和歌の意味や表現の効果などについて発表する。(個人) ★ロイロノート 電子黒板	[思考・判断・表現] ワークシート・発表 ・送られた和歌の意味を踏まえ、選択肢からふさわしい返歌を選び、意味や表現の効果についてまとめて発表しているか確認する。 [主体的に学習に取り組む態度] ・進んで、返歌の規則性を探り、表現のしかたを根拠として具体的に挙げ、思いや考えを發表しているか確認する。
5	○前時の「振り返り」を交流し、和歌の学習の感想を共有する。 ★ロイロノート	[知識・技能②] ワークシート ・和歌の学習を通して学んだ表現のしかたや和歌に込められた作者の心情について自分の考えを持つことができたか確認する。

#### 6 本時の指導 (4時間目/全5時間)

##### (1) 目標

- ・送られた和歌に対し、選択肢の中からふさわしい返歌を選び、その根拠として意味や表現技法に触れながら説明することができる。 [C読む(1)ウ]

(2) 展開

段階	生徒の活動	教師の指導/★ICTの位置づけ/評価等
導入 5分	1 チームごとに着席 2 学習課題を確認する。	1 3人×7チーム ★ロイロノート共有ノート 電子黒板 2 学習課題の提示
展開 35分	送られた和歌に「返歌」をしよう。	
	3 送られた和歌に対し、返歌としてその歌を選んだ理由を、和歌の意味や語句、表現技法を根拠として挙げながら説明する。 4 返歌の規則性に気づく。 5 新たに提示された和歌に対する返歌を資料箱から選び、その理由を書く。 (個人)	3 グループごとに発表させる。 ★ロイロノート共有ノート 電子黒板 4 返歌の規則性を確認させる。 ★電子黒板 ・類似の内容 ・同じ語句を使用 ・効果的な表現技法など 5 新たな和歌を一首提示し、各自に返歌を選ばせる。 ★ロイロノート 電子黒板
	6 発表する。(2、3人)	6 何人かに発表させる。★ロイロノート 電子黒板
終末 10分	7 振り返りをまとめる。 (個人) 学習を通して感じたこと、他のグループの発表から学んだことなど記入。	7 振り返りをまとめさせる。何人かに発表させる。  (記述例) ・「返歌には同じ言葉を使うとよい」というような規則性があることに気づいた。相關歌についてももっと調べたい。 ・遠い昔の人たちが、さまざまな表現技法を使って和歌を送り、それにふさわしい表現の仕方では返歌をするという気持ちのやり取りは、格調高いことだと思った。 ・送られた和歌に対し、ふさわしい返歌を選ぶのは楽しかった。昔の人の伝達手段は限られていたと思うが、自分の気持ちを伝えたいという思いは同じだと思った。

(3) 板書計画

